

# チャンス

おかげさまでありがとうございます。

本日はまず、私がよく存知上げているKさんのことについてお話したいと思います。

Kさんとは出会って三年になりますが、何事も素直に受け取り、良心に恥じるところが無い程ますすべな生き方をしている女性です。忙しい時も、自分の体調が悪い時も、いつも明るくニコニコ顔で周りの人たちをも笑顔に変え、和ませてくれます。しかしKさんは、いつもの笑顔からは全く想像できない程の過酷な幼少期を過ごしました。父親との縁が薄く、母親も病弱で働くことも出来ず、母娘共々親戚の家で暮らしていました。その自宅に食費を支払うことになっていたので、学生時代のアルバイトだけでは、わずかしが手元に残らなかったそうです。

社会人となって母親一人を親戚宅に残し、睡眠時間も惜しんで一心に働き続けたのも、少しでも早く母親を引き取って二人仲良く暮らしたためでした。Kさんのような先行き険しい状況下では、たいがい「何故自分はこんなに苦しい思いをしているのだろうか」と愚痴を言いたくなるものです。しかしKさんは現状を素直に受け止め、何よりも働けることのありがたさを感じ、誠実に仕事に励んだのです。そんな折、Kさんはヘルパーとして私の自宅に来てもらうことになりました。Kさんにとって私との巡り合いは、**幸せのきっかけ**となる「チャンス」だったのです。

当初より、行儀作法のことなど、私はKさんになにかにつけて事細かに厳しく注意しました。ところがKさんは笑顔を絶やさずことなく「はい」と全てを聞き入れては、きちんと自分のものにしていったのです。その理由と「**心**」のような難しいことも習得していかないと職を失うという境遇にずっと立たされていたからということが考えられます。しかしそれ以上に大切だと思えることは、私から何を言われても決して悪くとらえずに、**全てを聞き入れる「素直な心」**をKさんは持っているということです。

このKさんは半身不随の身である私の世話をしながら、会話が出来る、少しでもご飯が食べられるといった**ごく当たり前のことに、心から喜びを感じて感謝することの大切さを悟った**そうです。それも「素直な心」を持ち得ていたからでしょう。そして**今の自分の在りようがただだけ幸せなことを真摯に受け止め、自分の仕事に一層励み**ました。結果的にそれが自分のあらゆる面を**さらに高め**ていくなじみになったのです。

今やKさんは、ヘルパーとしてどこからも引つ張りだこになる程信頼される人物となりました。母親を引き取り、旅行にお連れすることも出来たのです。また、十年間お付き合いをしている

方と結婚しました。そして仕事の能力を高めるために、介護の上段の資格取得を目指して現在勉強にも励んでいます。

**どんなに苦しい時でも前向きに物事を考え、悪い誘いに決して乗らず、自分ができるところに真に向から取り組み、実直に生きて来た**結果、Kさんは私との巡り合いという「チャンス」をつかみました。そしてその「チャンス」を自分の誠実さと努力でしっかりと活かしました。今では人生の目標を持つことができ、「生きることの幸せ」を心底感じ、何事にも益々感謝するようになったそうです。

ここで私が話したい「チャンス」とは単なる「人生の転機」という意味ではありません。そうであるなら、よく耳にする処世術と同じように、「人生の転機を逃さないためには一人一人が人生に対する意識を普段よりどのように持つべきか」という点が、本日の私の法話の話題となるでしょう。確かに人生に対する意識を常に持っていることは、大切かもしれません。しかし、私が皆さんにお話したい「チャンス」とは、**幸せになるためのきっかけ**のことであり、あえてそのような意識を持たなくても、**ご自身の心がけでつかみとれるもの**なのです。

笑顔の絶えないKさんを傍で見えて改めて感じることは、「チャンス」をつかむためには、自分の置かれている立場を真摯に受け止め、今、できること、すべきことが自分に与えられていることに感謝できる素直な心、そしてその日その日を精一杯生きていこうという覚悟にも似た気持ちだが、何よりも大切であるということです。そうした人生へのひたむきな思いは神へ伝わり、**幸せへのきっかけ**を神より頂戴します。

私の法話を「**素直な心**」で受け止めていただければ、特別なだけでなく、どのような境遇や立場の人にも必ず「チャンス」は訪れ、「運命」を変えることが出来るということがおわかりいただけるはずです。感謝を忘れず信念を持って、ご自身の人生を精一杯歩んで下さい。そして神のお導きの下、「チャンス」をご自分の手でつかんで下さい。

益々お幸せな人生を歩まれますように。

おかげさまでありがとうございます。

合掌



## 太魂教会 主管 浅田妙浄

昭和十六年、大阪に生まれる。小学校五年のときから、厳しい修業の道に入り、若くして滝行、護摩行、山行等を修め、師匠からも一目置かれるほどの「修行者」となる。二十歳過ぎに、主神「秋津天御親太御魂大神」の天啓を受け不思議な神力を授かり、以来太魂教会を興し、多くの人々を

幸福へと導く。その功績著しく修業をした本山「妙見宗本滝寺」より、平成四年僧正の僧階を与えられる。